

令和6年度 和歌山県農林大学校農学部 学校評価計画表

教育目標

高度な専門知識と技術並びに幅広い視野と豊かな人間性をもった明日の和歌山県の農業を担う人材の育成

中期的目標

教育カリキュラムの充実による優れた経営感覚や実践的技術・知識をもった農業後継者と農業技術者の育成

	直近5年平均	5年後
入学人数	16名	23名
就農率	34%	45%

今年度の重点目標

- 1 学生の確保
- 2 教育活動の充実・強化
- 3 進路支援の強化
- 4 情報発信の充実

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取組内容												
1 学生の確保	<p>○平成以降入学者の定員割れが続いている</p> <p>○直近5年は年平均16.4名と低迷(受験者数20.4名)</p> <p style="text-align: center;">定員40名 ↓ 実績:16.4名 (R2~6平均)</p> <p>出身高校の属性(R2~R6) 農業37%、総合19%、普通37%、商工業7%</p> <p>○県外からの入学生は増加 直近5年は毎年県外からの学生が入学年平均4.2名。</p> <p>(県内外の属性(R2~R6)) 県内74%、県外26%</p> <p>○アグリビジネス学科(H29新設)の入学者も低迷</p> <p style="text-align: center;">定員10名 ↓ R6年度5名 (H29:8名、H30:5名、R1:0名、R2:4名、R3:2名、R4:3名、R5:0名)</p>	<p>【令和7年度入学生:20名確保】 園芸学科:15名 アグリビジネス学科:5名</p> <p>○高校へのアプローチ ・学校訪問 ・資料送付 ・高校職員との関係会議でPR</p>	<p>○学校紹介と学生募集活動の展開 ・受験者数の確保 23名以上(入学生/受験生=約9割) ・教育委員会との連携による高校訪問(事前に学校教育課長から県内全高校へ協力依頼文を発出のうえ、集中訪問を実施) ↓ 学校訪問巡回数 4巡 6月、9月、11月、1月 延べ106校(R5実績:県内87校 県外19校)</p> <p>学校パンフレット、農学部紹介チラシ、オープンキャンパス案内を持参 園芸学科、アグリビジネス学科それぞれの特徴を巡回説明</p> <p>・募集要項、学校案内等の送付(4月)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">募集要項</td> <td style="text-align: center;">学校案内</td> </tr> <tr> <td>県内</td> <td style="text-align: center;">48校 204部</td> <td style="text-align: center;">245部</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td style="text-align: center;">292校 268部</td> <td style="text-align: center;">330部</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: center;">472部</td> <td style="text-align: center;">575部</td> </tr> </table> <p>・教育関係首長会への出席、農大概要説明(校長、副校長) 教頭会議 5月13日 校長説明 募集要項 110部を配布 進路指導部長会議 5月17日 教授説明 70部を配布 進路指導研究会等 7月上旬 副校長説明</p>		募集要項	学校案内	県内	48校 204部	245部	県外	292校 268部	330部	計	472部	575部
		募集要項	学校案内												
	県内	48校 204部	245部												
	県外	292校 268部	330部												
計	472部	575部													
	<p>○オープンキャンパス 4回 ・夏は高校3年生、 ・春は1、2年生をターゲット ・参加人数制限をなしに</p>	<p>○チラシ配布やHP、SNSなどにより事前告知を強化 ・7、9月に3回開催(7/7 7/28 9/8) ・3月に1回実施 ・参加者に「入試想定問題」を配布するとともに、職員からスマート農業、GAP演習の取組みを、学生から農大生活等を紹介 ・卒業生から農林大に入学してよかったことや役に立ったことを紹介 ・オンラインによる申込フォームによる利用者の利便性の向上と業務を効率化</p>													
	<p>○農業系高校との連携強化と出前授業の実施</p>	<p>○県内農業系4高校との連携強化 ・「高大連携プロジェクト」(R3新規事業)の推進 農業系4高校(紀北農芸、有田中央、南部、熊野)と農林大学校が専門的な授業等で連携することにより、5年一貫の教育システムを構築する事業 ○令和7年度入学生受入体制の構築 ○令和8、9年度入学生のプロジェクト研究テーマの検討</p> <p>・高校からの依頼に基づき、リモート発表を開催 プロジェクト研究を発表紹介(本校発表会 12/13) 卒業論文発表会(2/13)</p> <p>○出前授業の実施 ・本校職員が高校からの依頼内容に基づき高校での授業を実施 「和歌山県の農業」 「農業の魅力と農林大学校」 「就農支援制度」等</p>													
	<p>○アグリビジネス学科のPR</p>	<p>○農学部パンフレット、アグリビジネス学科PR資料配布説明 アグリビジネス学科生の確保のため、カリキュラムをわかりやすく説明し、農業経営が学べることを知ってもらう</p>													

令和6年度 和歌山県農林大学校農学部 学校評価計画表

教育目標

高度な専門知識と技術並びに幅広い視野と豊かな人間性をもった明日の和歌山県の農業を担う人材の育成

中期的目標

教育カリキュラムの充実による優れた経営感覚や実践的技術・知識をもった農業後継者と農業技術者の育成

	直近5年平均	5年後
入学者数	16名	23名
就農率	34%	45%

今年度の重点目標

- 1 学生の確保
- 2 教育活動の充実・強化
- 3 進路支援の強化
- 4 情報発信の充実

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取組内容
2 教育活動の充実強化	<ul style="list-style-type: none"> ○スマート農業の振興など農業を取り巻く情勢は刻々と変化 ○一方、本校学生の属性も多様化 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の属性 (R2～R6) <ul style="list-style-type: none"> 専業農家 20% 兼業農家 19% 非農家 61% (H27～R1) <ul style="list-style-type: none"> 専業農家 19% 兼業農家 29% 非農家 52% ・出身高校 (R2～R6) <ul style="list-style-type: none"> 農業37%、 総合19%、 普通37%、 商工業7% ○学生間に基礎学力の開きがある ○資格取得率 (R1～R5実績) <ul style="list-style-type: none"> ・大型特殊自動車(農耕用):100% ・園芸技術:79% ・農業技術検定2級:18% ・農業簿記3級:43% ・危険物乙四:14% ・毒劇物:2% ・狩猟免許(わな猟):84% 	<ul style="list-style-type: none"> ○時代の流れに即した授業の実践・授業時間の確保 ・卒業論文の充実強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○スマート農業機械演習(1年 前期:12時間、後期:8時間) <ul style="list-style-type: none"> スマート農業演習を学生の操作技術等を早期に習得させるため、前期に集中して実施する。 →専攻実習で農業散布ドローン、リモコン草刈機、スピードスプレヤー等の活用を高めることで、実践力を強化する ○GAP(農業生産工程管理)の実践教育(2年 48時間) <ul style="list-style-type: none"> 国庫事業を活用し、令和2年度「カキ」、3年度「トマト」のグローバルGAPの認証継続 GAP演習を通じて、認証取得に向けた実践教育を実施する ○特別講義 <ul style="list-style-type: none"> 農大学生会社の店舗運営、組織運営等に学習領域を広げた授業を実施 ○試験研究機関との連携による卒業論文指導 <ul style="list-style-type: none"> R6年度新入生から実施
		<ul style="list-style-type: none"> ○資格取得の拡充と資格取得率向上を目指した取組 <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得率 <ul style="list-style-type: none"> 大型特殊自動車(農耕用):100% 園芸技術(2年):80% 農業技術検定2級(2年):30% 農業簿記検定3級(2年):70% 危険物(1年):40% 毒劇物(1年):30% 狩猟免許【わな猟】(2年):90% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ドローンのオペレーター講習による資格取得(新規) <ul style="list-style-type: none"> 受講者3名予定 ○園芸技術、農業技術検定 <ul style="list-style-type: none"> ・資格試験直前の集中講義「資格取得対策」を実施 ・模擬試験の実施 ○農業簿記検定 <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験の実施 ○危険物・毒劇物 <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招聘(R1～) ・不合格者に対し再チャレンジへ誘導(R2～) ・職員による補習授業の実施(R2～) ・過去問題を徹底解説し、個別指導の強化で対応
		<ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある教育の実践(その1) <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業関連技術の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○自動環境制御を活用した「ミニトマト」増収栽培技術の習得をプロジェクト学習で、「ガーベラ」の高品質生産技術の習得を専攻実習を通じて実践(R3～) ○プロジェクト学習として、蓄積された施設内環境の測定データを活用し、収穫予想を行い、予測を基にした栽培管理計画や出荷計画を行う
		<ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある教育の実践(その2) <ul style="list-style-type: none"> ・GAPの取組を強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○GAP演習の授業導入 <ul style="list-style-type: none"> 農大職員によるVer.6審査に対応した講義・演習(合計12回)によりグローバルGAPの認証取得に必要な知識と技術の習得を行う。 ○グローバルGAP認証継続のための職員指導体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産工程管理チーム体制の整備による指導強化 ↓ ・学生がGAP実践の知識や技術を容易に習得 ○果樹・野菜・花き全コースでGAP農業の取組みを強化 <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルGAP(カキ、トマト)【継続】 ・MPS-ABC認証取得(花き)【継続】 ○GAP認証品の販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・カキの輸出版売 ・カキの国内販売(店舗でのテスト販売)
	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある教育の実践(その3) <ul style="list-style-type: none"> ・模擬会社の学生運営 	<ul style="list-style-type: none"> ○「特別講義」で店舗運営や組織運営についての知識を習得 ○模擬会社「わかやま農大学生会社」の運営を、学生が中心となり生産から仕入れ、販売までの運営を自ら行う。 店舗運営を通じて、会社経営の方法や納税の必要性などを学習。 	

令和6年度 和歌山県農林大学校農学部 学校評価計画表

教育目標

高度な専門知識と技術並びに幅広い視野と豊かな人間性をもった明日の和歌山県の農業を担う人材の育成

中期的目標

教育カリキュラムの充実による優れた経営感覚や実践的技術・知識をもった農業後継者と農業技術者の育成

	直近5年平均	5年後
入学者数	16名	23名
就農率	34%	45%

今年度の重点目標

- 1 学生の確保
- 2 教育活動の充実・強化
- 3 進路支援の強化
- 4 情報発信の充実

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取組内容
3 進路支援の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○非農家出身の学生が増え就職に関する指導や就職先の開拓などきめ細やかな対応が必要 加えて学生の多様化により卒業後の進路や学校生活に不安を感じる者が現れる傾向がある ○就職試験の時期が早まっていることから、学生の就職活動は1年生後半には準備を始める必要がある ○1年生における就業意識は未だ低く、早期から積極的に活動する学生は一部である ○卒業時の進路確定率 98% (R1~R5) 	<ul style="list-style-type: none"> ○将来設計能力の養成 ・授業内容の充実 ・インターンシップ研修で実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路支援強化に向けた授業の実施 ・キャリアデザイン授業(1年生) 学生が主体的に、人生と職業、キャリアプランを思索するため専門外部講師と職員連携による授業を実施 ・就農予定者には卒業後の営農モデルを設計させ、経営展開の計画性を高める
		<ul style="list-style-type: none"> ○ハローワークとの連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ハローワーク(HW)からの講師派遣 ・求人票から見る就労条件のポイント ・就職面談に有利なエントリーシートの作成 ・HW職員による模擬面接の実施
		<ul style="list-style-type: none"> ○個別面談による進路指導 ○求職情報の常時提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別面談の実施(進路指導職員、担任との2者面談) 保護者との連携を密に学生の学力向上と進路意識の醸成を双方から指導支援する 新規参入希望生へは「新規就農受入協議会」との連携を密に図り、県内の就農定着を支援する 【1年生】5月:進路状況調査・二者面談 9月:三者面談 1月:HW講師による模擬面接 ・5月にアンケート調査をおこない、悩みがちな学生には、保護者とカウンセラーと連携しながら、早期サポートをおこなう 【2年生】4月:就職活動動向調査、二者面談 7月:非内定者への就職支援 随時:進路指導、職員による模擬面接
		<ul style="list-style-type: none"> ○学校と専門カウンセラー、保護者3者による伴走型支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校1年生を対象に、紀北農芸高校との協同開催として企画。JA、農業法人、農業関連企業等を招請し、学生の進路決定の一助とする ○ガイダンスを機に、学生自らが企業担当者へ直接コンタクトをとり、自己PRをおこなうことで、就職活動の優位性を高める
4 情報発信の充実	○農林大学校が一般に十分認識されていない	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページ・SNSによる農林大学校の魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブログ以外のツールによる情報の発信と閲覧状況の分析 ・県ホームページ更新 30回 ・Twitterによる情報発信 30回 ・Instagramによる情報発信 30回
		<ul style="list-style-type: none"> ○マスメディア等を通じた情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○プレスリリース回数 12回 ○広報誌 10回
		<ul style="list-style-type: none"> ○地域における効果的な情報発信関係機関(市町、JAなど)や地元民間企業(JR、スーパー等)を通じた和農林大情報の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○市町(経営支援課協力)、JA等関係機関に対して広報誌やホームページへの記事掲載、ポスター掲示を要請 26カ所(市町18、JAB) ○民間企業へのポスター掲示を要請 50カ所